

EGFRタンパク

提出方法

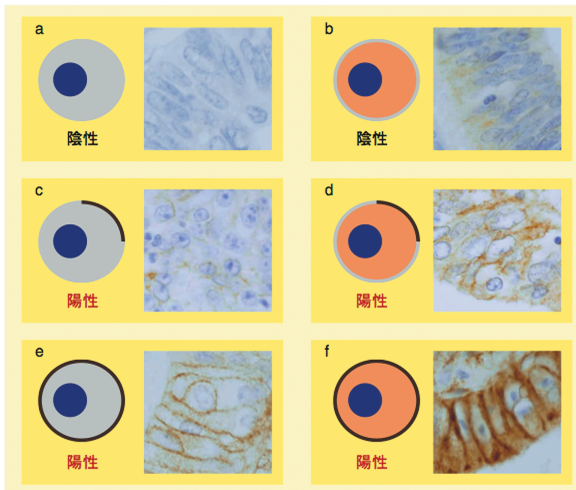
- 10%中性緩衝ホルマリン固定が推奨されますが、固定が適切であれば 10~20%ホルマリンで固定でも使用可能です。
- 未染色標本での提出
シラン等のコーティングスライドを用い、4~5 μ mで作製し3枚以上、ご提出下さい。
薄切後、4週間以内のものをご提出ください。(陰性化する場合があります)

EGFR染色の判定結果と解釈

大腸癌組織におけるEGFR染色の結果は、まず陽性細胞の有無によって「陽性」もしくは「陰性」の判定がなされ、この判定結果に基づき治療方針が決定されます。

判定	定義
EGFR陰性	全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。
EGFR陽性	染色態度が、連続性或いは不連続性に関わらず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。

染色を行った組織中の腫瘍細胞において、僅かでも陽性シグナルが認められた場合(陽性率 \geq 0%)、判定は「陽性」となります。「シグナルのパターンが連続性かどうか(全周性かどうか)」や「シグナル強度がどうか」は問われません。



a 陽性シグナルが認められないため陰性。

b 細胞膜に弱い陽性反応が認められるものの、細胞膜には陽性シグナルが認められないため陰性。

c 不連続ではあるが、細胞膜に陽性シグナルが認められるため陽性。

d 細胞質に弱い陽性反応が認められるがこの染色強度を超える陽性シグナルが細胞膜の一部に認められるため陽性。

e 細胞膜に全周性の陽性シグナルが認められるため陽性。

f 細胞膜に弱い陽性反応が認められるが、この染色強度を超える陽性シグナルが細胞膜の上にも認められるため陽性。

■:陽性シグナルなし、■:弱陽性シグナル、■:強陽性シグナル、●:細胞核